保健体育科学習指導案

日　時　令和７年 11 月 11 日（火）
　　第１校時　８:40～９:25
学校名
対　象　第２学年　組　　名
会　場　校庭
授業者

１　単元名

体育分野　E　球技　ゴール型「サッカー」

２　単元の目標

(1) 知識及び技能

ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防することができるようにする。

(2) 思考力、判断力、表現力等

生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(3) 学びに向かう力、人間性等

球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、合意形成に貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができる。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　状況を見てパス、ドリブル、シュートの選択肢から適切に判断することができる。 ②　パスやドリブルなどの基本的なボール操作ができる。 ③　空間を埋める動きを活かした攻防を活かして試合を行うことができる。	①　チームや自己の良い点や課題を見つけ、解決するための練習の計画や戦術を立てようとしている。 ②　自己やチームの良い点や課題について、考えたことを他者に伝えることができる。 ③　生涯にわたって球技を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	①　球技に主体的に取り組み、安全管理や相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 ②　チーム内での自身の役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしている。

4　指導観

(1) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領（平成 30 年７月告示）第２章　第６節　保健体育　Ｅ 球技

> (1)　次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。
>
> ア　ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすること。
>
> (2)　生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。
>
> (3)　球技に主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしようとすること、合意形成に貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康安全を確保すること。

を受けて設定した。

また、高等学校学習指導要領（平成 30 年７月告示）解説保健体育編の内容を踏まえ、本単元における運動の特性を以下のように捉えた。

○　機能的特性

ボールを媒介として、集団対集団での攻防を繰り返しながら得点を取り合い、勝敗を競うことを楽しむ攻守一体型のゴール型運動である。より多くの得点機会を作り、より多くの得点機会を防いでいくためにはゴールから逆算し、攻撃側はより良い空間を攻略すること、守備側はより危険な空間を未然に防ぐことが求められる。

○　構造的特性

パスやドリブル、シュートなどの個人技能を生かした攻撃と、複数人が仲間と協力しボールに関わるチーム戦術といった集団技能の両方が必要であり、チームワークがとても重要となる運動である。

○　効果的特性

主として巧緻性、敏捷性、スピード、全身持久力を高めることができる運動である。また、フェアなプレイを大切にしようとする心や自己の責任を果たそうとする責任感、作戦などについて話合いに貢献しようとする協調性なども高めることができる運動である。相手や味方の状況を見てプレイを選択することから、洞察力と判断力が身に付く運動でもある。

(2) 生徒観

ア　教師から見た生徒の実態

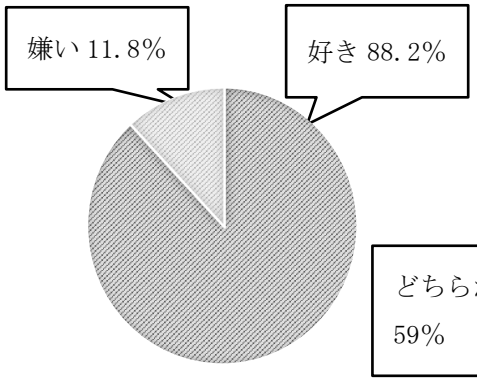
本時の学級は仲がよく授業で与えられた課題は個人単位でもグループ単位でもひたむきに取り組むことができる。しかし、自分の意見を発信したり、仲間にリーダシップを発揮したり、自ら率先して行動を起こすことにおいては経験が乏しく苦手意識をもっている生徒が多い。そのため、授業では生徒一人一人の役割を明確にすることや生徒に主体的な判断を委ねる場面を多く作

り積極性を高めていきたい。また、日頃から仲のよいクラスであるが故に規律が乱れ注意が散漫になるなど安全性に欠けるようなことも見受けられるため、授業規律を高め安全の確保に努めながらメリハリのある授業を展開する。

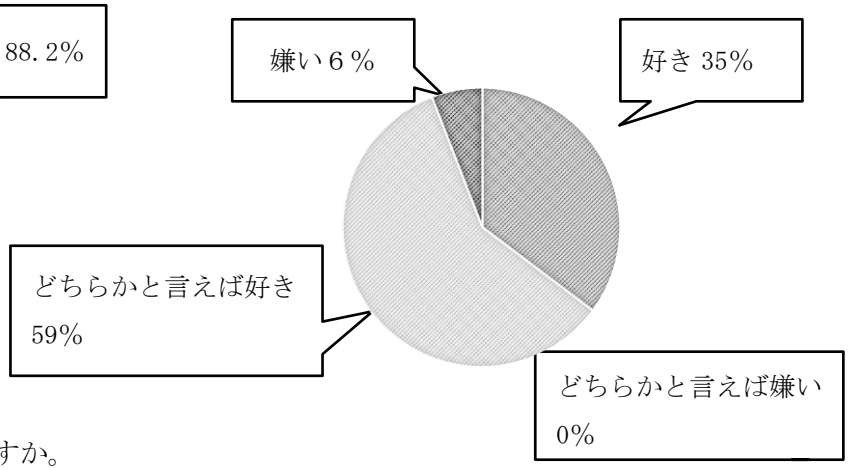
イ　実態調査

(ｱ) 調査理由：生徒の実態に応じた個別最適な学びを実現するため
(ｲ) 調査方法：クラウド型教育プラットフォームによるアンケート
(ｳ) 調査対象：第２学年５組男子 22 人　（回収 17 人）
(ｴ) 実施時期：令和７年９月下旬
(ｵ) 調査項目及び調査結果（単位：割合%）

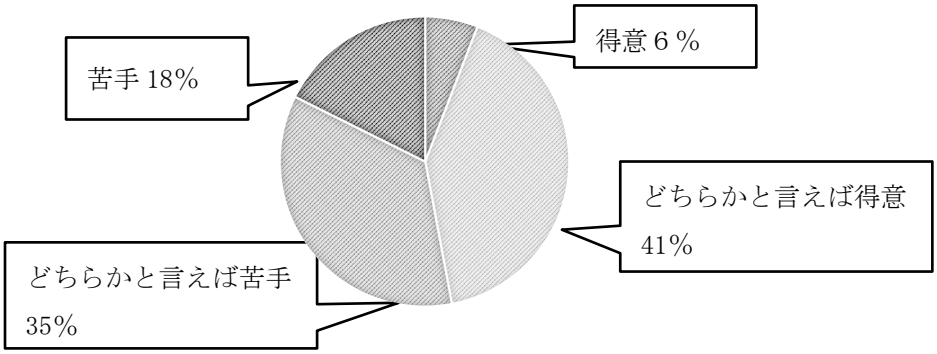
問１　体育の授業は好きですか。



問２サッカーの授業は好きですか。



問３　サッカーは得意ですか。



問４　サッカーを難しいと感じるポイントは何ですか。（自由記述）

・ドリブル、人を抜かすとき、速く動く時、ディフェンスとの駆け引き
・ボールコントロール
・リフティング
・自分の動き
・守備のラインコントロール
・プレーがかみ合わなかったとき
・周りを見て、シュートまで味方と連携を取るとき
・落ち着けないとき
・オフサイドなどのルールがあってそれが適用されてしまったとき

問５　よりレベルの高いサッカーの授業を行う上で必要なことはどんなことだと思いますか。
（自由記述）

・パスを正確にトラップできるようになること
・ドリブルとパス
・練習
・1 対 1 の駆け引き
・プレッシャーを掛けられながらでも周りを見る練習をする
・戦術を理解することに時間をかけること
・自分だけでゴールまで行くのではなくチームメイトとも連携を取りながらすること
・みんなが向上心を持つこと
・サッカーがうまい人にコツを聞いてサッカーのレベルをあげること
・キーパー、センターバックが指示出し、だんだん慣れてきたら各個人で指示をだすこと
・基礎力、多少な知識を身に付ける
・失敗例を教えること
・個別指導をする
・良い環境、芝生
・先生がお手本を見せる

(ｶ) 考察

問１及び２の回答では体育及びサッカーに対して好意的な生徒が 90%を占めていることが分かった。しかし問３では 90%のサッカーが好きな生徒のうち得意と感じている生徒は 47%を占めるに過ぎないことが分かった。問４・５では個人技術の難易度の高さと、相手がいる場面での味方との連携や技術の発揮という２つの側面において難しさを感じている生徒が多いことが分った。個々の技術向上に加えて、周囲との連携プレイを成功させるための戦術を身に付けることに必要性を感じている生徒が多いことも分かった。より良い授業を行っていくために、授業の中では基礎的なクローズドスキルの向上のための積み重ねや、落ち着いた状況判断を引き出すゲームサイズの工夫、場の工夫を行う。オープンスキルの技術の発揮によって生徒が目先のボールをただ追いかけるだけでなく、ゴール型ゲーム特有の攻防を味わえるようにしていく。

⑴　教材観

本単元では、単元前半に基本的なボール操作とスモールサイドゲームで生徒一人一人のボールに触れる機会とシュート機会をたくさん作り、得点する喜びを感じられるようにする。授業回数を重ねるごとにコートサイズを大きくしたり、ゲーム人数を増やしたりすることで、意識を個人技術からチーム戦術へと移行する。その中で空いた空間を簡易的に見つけることができる場の工夫を多く作りながら、ゴール前の攻防の学習を深めていく。

単元後半はチームごとにメンバーに応じた戦術や練習メニューを考案し、試合につながる探究学習を中心に授業を展開していく。探究学習では『試合課題に即した練習』をテーマに個々の技術課題や、チームの戦術に即した練習を通じて得点シーンを作れるようにしていく。

授業のルールと進行については活動時間のメリハリをしっかりと付け、サッカーに主体的に取り組み、楽しさやできる喜びを味わえるようにする。また、フェアプレイを大切にし、仲間のプレイや努力を認め合う意識を高めるとともに、チームで互いに評価し合える雰囲気づくりを行う。

５　年間指導計画における位置付け

４月.５月	６月.７月.９月	９月.10 月	10 月.11 月.12 月	１月.２月.３月
・球技 ネット型（テニス）	・水泳 ・体つくり運動	・球技 ネット型（バレーボール）	球技 ゴール型（サッカー）	・陸上競技（長距離走） ・体育理論

６　単元の指導計画と評価計画（全８時間）

	目標	学習内容・学習活動	評価規準（評価方法）
第１時	身体の様々な部位でのボール操作を通じてボール感覚を身に付けることができるようにする。	○リフティング ○複数人でのボールタッチ練習 ○パスゲーム	ア②　（実技観察と記録）
第２時	試合の中で狙った場所にシュートを打つことができるようにする。	○コーンドリブル練習 ○ポストシュート ○シュートゲーム	ア①　（実技観察と記録）
第３時 （本時）	相手や味方の位置を見て状況に応じた基本的なボール操作を行うことができるようにする。	○相手のいるボールコントロールの練習 ○攻撃側の数的有利な状況における攻防 ○ゲーム	ア①　（実技観察と記録） ウ②　（実技観察と記録）
第４時	試合の中でゴール前に侵入して味方からパスをもらいシュートを打つことができる。	○様々な状況を想定したシュート練習 ○ナンバーゲーム	ア②　（実技観察と記録） ウ①　（実技観察と記録）
第５時	味方と連携して複数人で攻撃をすることができるようにする。	○サイドからのクロスシュート ○ゴール前の攻防 （ワンサイドゲーム） ○ゲーム	ア①　（実技観察と記録） ウ②　（ワークシート記入内容）
第６時	チームのメンバーに応じた作戦を立て試合の中で攻防を行うことができるようにする。	○スキルテスト ○ゲーム	ア③　（実技観察と記録） イ③　（ワークシート記入内容）

第７時	前時を踏まえた課題解決のための練習や作戦を考案し試合に活かす。	○チーム練習 ○ゲーム	ア②　（テスト結果） イ①　（ワークシート記入内容）
第８時	前時を踏まえた課題解決のための練習や作戦を考案し試合に活かす。	○スキルテスト ○チーム練習 ○ゲーム	イ②　（実技観察と記録） ウ②　（実技観察と記録）

７　指導に当たって

・　守備側に条件を付け、生徒の空間認知や空いたスペースに走りこむ動きが攻撃側に可視化できるような練習を多く用いる。

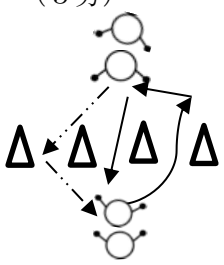
・　個々の基礎技術を高める練習と、その技術を生かして試合に近い条件で発揮する練習を系統立てて計画を作成する。

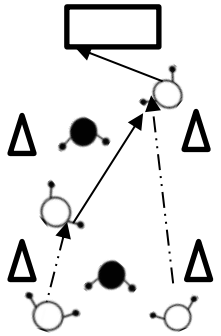
８　本時（全８時間中の第３時）

(1) 本時の目標

相手や味方の位置を見て状況に応じた基本的なボール操作を行うことができるようにする。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 10 分	○ 整列　準備運動 ○ 本時の説明 ・　前時の振り返りと本時の流れを確認する。 ○ リフティング練習 （３分）	・　巡回しながら爪や靴紐などの安全確認を行う。 ・　チーム分けゼッケンを配布する。 ・　前時で意識したシュートフォームと本時のテーマを口頭で簡潔に説明する。 ・　蹴る位置、足首の角度を意識させる。 ・　苦手な生徒は１バウンドで実施する。	
展開 32 分	練習① ○パス＆コントロールの練習 （５分）  コーン幅各３m 縦９m 実線：ボールの動き 点線：人の動き	・　パスに対して最初は足裏でのコントロールを意識できるように働きかける。慣れてきたらいろんな部位でコントロールできるよう言葉掛けする。 ・　相手と逆の方法にドリブルすることを意識できるよう、	

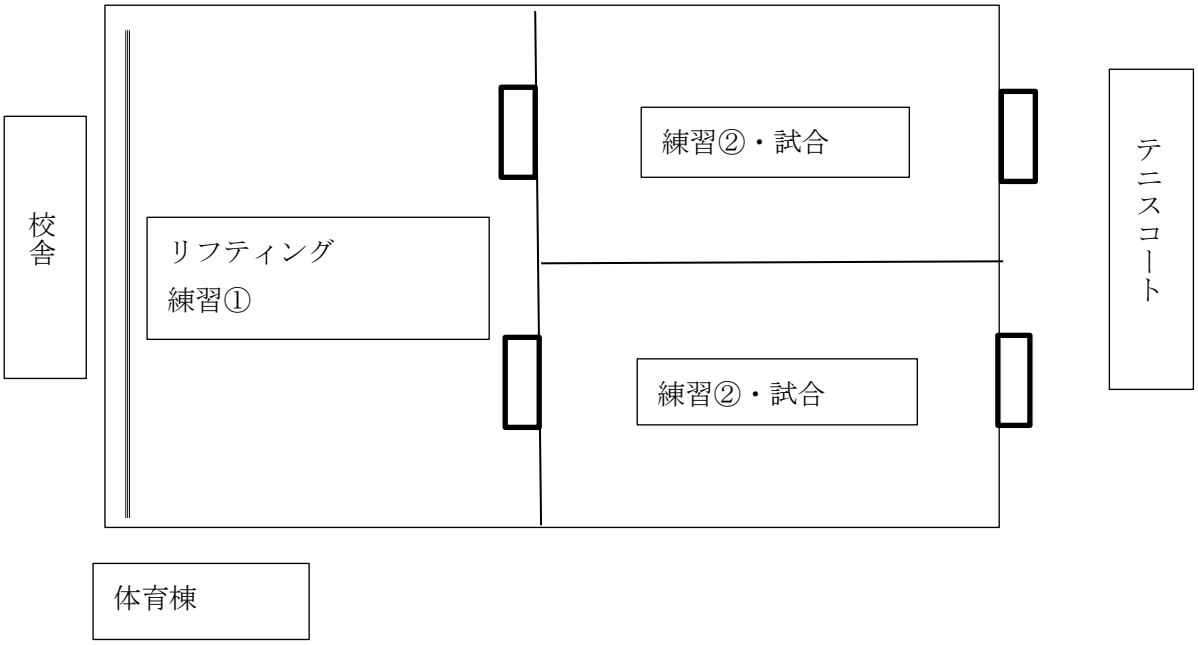
	波線：ドリブル ルール	ボールを止めた後に一度顔を上げるよう言葉掛けする。	
	・　パスを出した人はコーンの左右どちらかの間を走る。 ・　パスを受けた人は走ってきた人のいない方向にドリブルし次の人にパスをする。 練習② ○２対１での攻防の連続からシュートする練習（15 分）  コーン幅６m 縦 10m 実線：ボールの動き 点線：人の動き ルール ・　攻撃はパスかドリブルで２人のディフェンスを突破しゴールを目指す。 ・　守備はコーンの間しか動けない。 ・　守備はボールをカットするかボール保持者の選手をタッチしたら勝ち。 ○５対５の試合　（12 分） ・　縦 35m、横 20m のコートで実施。 ・　ハンドボールゴールを倒して設置する。 ・　４分２試合で実施する。 ・　ボールが出たらドリブルで再開する。	・　左右に走る人はだんだんスピードを上げたり、フェイントを入れたりしてコントロール側の難易度を高めていくようにする。 ・　攻撃は守備の位置を見てドリブルでの突破とパスでの突破を使い分けることができるよう言葉がけする。 ・　自身の技量に合わせてスピードを上げ過ぎないよう意識させる。 ・　守備はタッチでのディフェンスを積極的に行わせるよう促す。 ・　守備が動くことで空いた空間や、守備の背中の空間にパスを出すことを意識できるようにする。 ・　守備の交代のタイミングは教師が指示する。 ・　ゲームの中で相手を見てパス、ドリブルの判断を選択している生徒を積極的に称賛する。	ア①（実技観察と記録） ウ②（実技観察と記録）

	・　ゴールキーパーはなし。	・　縦のラインを見て空いた空間に走りこむ動きとドリブルでチャンスを積極的に作るよう伝える。	
まとめ ３分	○けが等の確認 ○本時のまとめ	・　本時の内容から試合に活かしてほしいポイントを伝える。	

(3) 授業観察の視点

- 授業内での教師の評価活動(アセスメント)は適切であったか。
- 生徒の活動量と活動の難易度は実態に適していたか。
- 場の安全が適切に確保されていたか。

(4) 場の設定



【引用文献・参考文献】

- 「高等学校学習指導要領解説　保健体育編」文部科学省（平成 30 年７月）